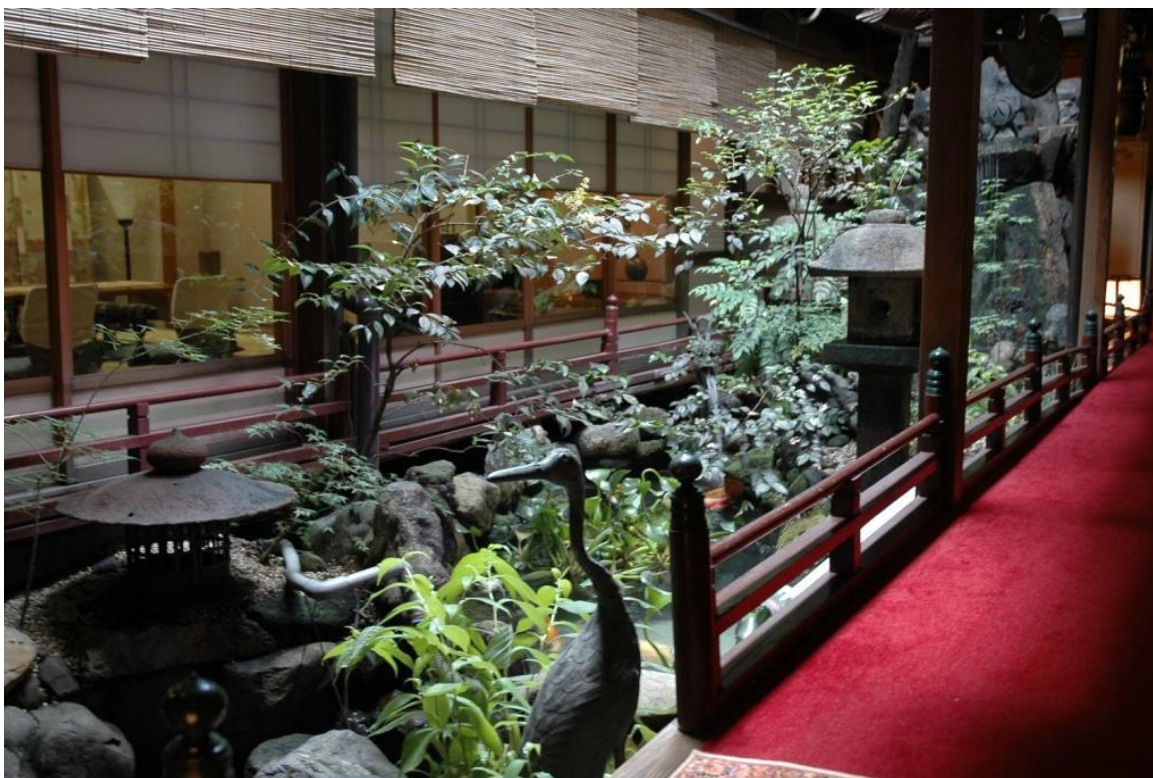


幕末の史蹟としての宿

京都府京都市 『幾松』専務取締役 久保 明彦

2010 年は、NHK の大河ドラマ「龍馬伝」のおかげで、幕末ブームと言われております。ここ最近のドラマでも、思いつくだけでも「篤姫」「新選組！」「仁」など、幕末を舞台にしたものは人気が高いようです。政治も経済も閉塞したこの時代、やはり困難な時代を突破した人物像や物語に憧れ、学ぼうとする姿勢は当然なのかもしれません。



さて京都といえば、千二百年の都、その時代によって中心となる場所は違いますが、当館「幾松」の位置する木屋町界隈は、まさに幕末エリア、多くの藩邸跡や志士の寓居跡、遭難跡を示す石碑が立ち並ぶ場所です。当館は、幕末は長州藩の控屋敷として利用され、明治以後には木屋町木戸邸として木戸孝允（桂小五郎）とその妻松子夫人がお住まいになられていた場所で、松子夫人の芸妓時代の「幾松」というお名前を頂いて名付けられています。細い路地を抜け、当時のままの玄関をお通りいただくと、ご希望される方にはお食事の前に、国の登録有形文化財に指定されたお部屋で、当館の幕末から明治にかけての歴史のお話をさせていただきます。窓の向こうに広がるのは、東山三十六峰と鴨川。それは、何よりも木戸公が愛した景色でもあります。百五十年ほどの間に変わっていったものと変わらなかったもの。その空間に漂う気配に、お客様自身がお耳をすまされるようです。



もちろん、当館は料理旅館ですから、季節の息吹を吹き込んだ美味しい京料理を提供し、お客様のお望みになる京らしい室礼に、温かいおもてなしでお迎えするのは当然のことです。でも、数多ある京都の宿の中で、何を求めて当館をお選び頂けるのかと考えると、切り口は自ずと決まってまいります。

当館は、交通至便な町中にありながら、鴨川と高瀬川に挟まれ、また東山を一望できる景勝地でもございます。それを五感で感じることができるのが、五月一日から九月三十日までの鴨川納涼床でございます。川床ほど、京の四季の移ろいを美しく感じる所を、私は他に存じません。季節が移るにつれて、東山の緑の色、風の香り、空気の質感、虫の音色、月の出る位置、全てが移り変わり、同じ日は一日とてございませぬ。その舞台にお客様が身を置かれることによって、ご自分のルーツに想いをはせ、日常を離れ、時空を超えて旅をなさる・・・そのお手伝いをそっとできる宿でありたい。それが、史蹟をお預かりした宿の使命と心得て、今日も精進いたしております。





京都府 京都市

幾松

〒605-0923

京都府京都市中京区木屋町通御池上る上

樵木町4 9 7 番地

TEL: 075-231-1234